



外国出張報告書

平成 26 年 4 月 7 日

1. 出張国名 マレーシア
2. 出張月 平成 26 年 3～4 月
3. 出張目的 セランゴール海域におけるハイガイ漁場調査 : C

4. 成果の概要

東南アジアの主要養殖種であり、マングローブにおいて重要な生態的地位を占めるハイガイの持続的生産を達成するため、対象海域に適した生態系モデルを作製し同漁場の環境収容量を評価する。また、同モデルを基に漁場に最適な漁業管理手法を導き出すとともに、これらの結果を地域レベルの漁業管理に反映させることを主目的としている。本研究では、生態系モデル作成及びハイガイ養殖漁場の漁業管理のための科学的基礎知見を収集するため、ハイガイ養殖の代表漁場であるセランゴール沿岸でハイガイ成貝の性成熟状態、成長過程およびハイガイ浮遊幼生の動態を追跡しハイガイ稚貝による種場形成要因調査を実施してきた。本出張では、これまでの生態調査で不足する知見の補完情報を収集するための、各主要漁場でハイガイの成長率調査を継続実施した。滞在中にはこれまでに採集したハイガイ等のホルマリン固定試料について、殻長および重量等の計測および生殖腺組織試料を顕微鏡観察用試料として採取した。また、モデル作成に関連する研究打ち合わせを、マレーシア水産研究所長およびカウンターパートらと実施した。